

田中一光

奈良県生まれ。昭和を代表するグラフィックデザイナー。江戸時代の琳派のデザイン性にいち早く気づき、影響を受け自身のデザインにも取り入れたことでも知られる。京都市立美術専門学校(現・京都市立芸術大学)図案科を卒業後、産経新聞大阪本社などでグラフィックデザイナーとして活躍したのち、田中一光デザイン室を主宰して独立。1954年から続いた「産経観世能」という能の公演のポスターはモダンデザインの方法論と日本の伝統的な美意識が融合した傑作として、現在でも国際的に評価が高い。1973年から西武百貨店のアートディレクターを務め、ロゴマークからパッケージデザイン、劇場や美術館のポスター、店舗の環境デザインまで、総合的な視点で企業戦略を支えた。また、芸術選奨文部大臣新人賞やニューヨークADC賞など、国内外のデザイン賞を数多く受賞している。